

# 令和2年第3回江差町議会定例会 決算議案集

[認定第1号～第9号]

## 議 案 目 次

|       |  |      |
|-------|--|------|
| 認定第1号 | 令和元年度江差町一般会計歳入歳出決算の認定について……………               | P 1  |
| 認定第2号 | 令和元年度江差町国民健康保険費特別会計歳入歳出決算の認定につ<br>いて……………    | P 3  |
| 認定第3号 | 令和元年度江差町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定につ<br>いて……………    | P 5  |
| 認定第4号 | 令和元年度江差町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について……………           | P 7  |
| 認定第5号 | 令和元年度江差町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定につ<br>いて……………    | P 9  |
| 認定第6号 | 令和元年度江差町公設地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算の認<br>定について…………… | P 11 |
| 認定第7号 | 令和元年度江差町港湾整備事業特別会計歳入歳出決算の認定につい<br>て……………     | P 13 |
| 認定第8号 | 令和元年度江差町奨学金特別会計歳入歳出決算の認定について……………            | P 15 |
| 認定第9号 | 令和元年度江差町水道事業会計決算の認定について……………                 | P 17 |

令和元年度江差町一般会計及び特別会計歳入歳出決算並びに基金運用状況審査意見書  
令和元年度江差町水道事業会計決算審査意見書

認定第1号

令和元年度江差町一般会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和元年度江差町一般会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照井 誉之介



認定第2号

令和元年度江差町国民健康保険費特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和元年度江差町国民健康保険費特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照井 誉之介



認定第3号

令和元年度江差町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和元年度江差町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照井 誉之介





認定第4号

令和元年度江差町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和元年度江差町介護保険特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照 井 誉之介



認定第5号

令和元年度江差町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和元年度江差町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照井 誉之介



認定第6号

令和元年度江差町公設地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算の  
認定について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和元年度江差町公設地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照 井 誉之介



認定第7号

令和元年度江差町港湾整備事業特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和元年度江差町港湾整備事業特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照井 誉之介





認定第8号

令和元年度江差町奨学金特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和元年度江差町奨学金特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照 井 誉之介



認定第9号

令和元年度江差町水道事業会計決算の認定について

地方公営企業法第30条第4項の規定により、令和元年度江差町水道事業会計決算を、別紙監査委員の意見を付し議会の認定を求める。

令和2年9月16日提出

江差町長 照 井 誉之介



江 監 査

令和 2 年 8 月 2 8 日

江差町長 照 井 誉之介 様

江差町代表監査委員 近 藤 偉



令和元年度江差町一般会計及び特別会計歳入歳出決算並びに  
基金運用状況審査意見書の提出について

地方自治法第 2 3 3 条第 2 項及び同法第 2 4 1 条第 5 項の規定により、審査に  
付された令和元年度江差町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算並びに基金運  
用状況について、決算書類及び証書類、その他関係書類を審査したので、その結  
果について次のとおり意見書を提出します。

(監査委員事務局)



令和元年度

江差町一般会計及び特別会計歳入歳出  
決算並びに基金運用状況審査意見書

江差町監査委員

## 目 次

|     |                             |    |
|-----|-----------------------------|----|
| 第1  | 審査の対象                       | 1  |
| 第2  | 審査の期間                       | 1  |
| 第3  | 審査の方法                       | 1  |
| 第4  | 審査の結果                       | 1  |
| 第5  | 決算の概要等                      |    |
| 1   | 各会計決算の概要                    | 2  |
| 2   | 各会計決算                       |    |
| (1) | 一般会計                        | 3  |
| ①   | 総括                          | 3  |
| ②   | 歳入                          | 3  |
| ③   | 歳出                          | 9  |
| (2) | 特別会計                        | 15 |
| ①   | 国民健康保険費特別会計                 | 15 |
| ②   | 後期高齢者医療特別会計                 | 16 |
| ③   | 介護保険特別会計（保険事業勘定・介護サービス事業勘定） | 16 |
| ④   | 公共下水道事業特別会計                 | 17 |
| ⑤   | 公設地方卸売市場事業特別会計              | 18 |
| ⑥   | 港湾整備事業特別会計                  | 18 |
| ⑦   | 奨学金特別会計                     | 19 |
| 3   | 財産に関する調書                    | 20 |
| (1) | 公有財産                        | 20 |
| (2) | 物品                          | 21 |
| (3) | 債権                          | 21 |
| (4) | 基金                          | 22 |
| 第6  | 審査意見                        | 24 |



令和元年度江差町一般会計及び特別会計歳入歳出決算  
並びに基金運用状況審査意見

江差町監査委員 近藤 偉 喜



江差町監査委員 小梅 洋子



## 第1 審査の対象

令和元年度江差町歳入歳出決算

<一般会計>

<特別会計>

- ◆国民健康保険費特別会計歳入歳出決算
- ◆後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- ◆介護保険特別会計歳入歳出決算（保険事業勘定・介護サービス事業勘定）
- ◆公共下水道事業特別会計歳入歳出決算
- ◆公設地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算
- ◆港湾整備事業特別会計歳入歳出決算
- ◆奨学金特別会計歳入歳出決算

<財産に関する調書>

## 第2 審査の期間

令和2年8月3日から8月7日までの5日間

## 第3 審査の方法

・審査は、令和元年度一般会計・特別会計歳入歳出決算書及び決算資料、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び基金の運用状況調書等について、各関係職員から説明聴取等の方法により計数の正確性、支出命令等の符合、収支の適法性等について審査を実施した。

## 第4 審査の結果

・審査に付された各会計決算書、決算資料、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び各基金の運用状況報告書等については、いずれも関係法令に準拠して作成され、かつ、それらの計数は証拠書類と符合し正確であり、その内容及び予算執行についてもおおむね適正であると認められた。

## 第5 決算の概要等

### 1 各会計の決算概要

#### ① 決算の状況

| 会計名                    | 予算現額          | 歳入決算額         | 歳出決算額         | 歳入歳出差引額     |
|------------------------|---------------|---------------|---------------|-------------|
| 一般会計                   | 6,125,913,000 | 5,812,862,897 | 5,643,084,805 | 169,778,092 |
| 国民健康保険費特別会計            | 885,931,000   | 836,565,955   | 820,403,433   | 16,162,522  |
| 後期高齢者医療特別会計            | 122,389,000   | 120,079,204   | 119,916,904   | 162,300     |
| 介護保険特別会計<br>保険事業勘定     | 1,083,081,000 | 1,049,888,317 | 1,015,150,504 | 34,737,813  |
| 介護保険特別会計<br>介護サービス事業勘定 | 5,252,000     | 2,982,350     | 2,982,350     | 0           |
| 公共下水道事業特別会計            | 313,468,000   | 311,076,102   | 311,076,102   | 0           |
| 公設地方卸売市場特別会計           | 2,471,000     | 2,303,495     | 2,303,495     | 0           |
| 港湾整備事業特別会計             | 2,128,000     | 2,303,248     | 1,447,515     | 855,733     |
| 奨学金特別会計                | 5,349,000     | 4,991,793     | 4,969,943     | 21,850      |
| 計                      | 8,545,982,000 | 8,143,053,361 | 7,921,335,051 | 221,718,310 |

#### ② 決算総額前年度比較表

(単位：円／%)

| 区分 |      | 令和元年度         | 平成30年度        | 比較増減         | 増減率   |
|----|------|---------------|---------------|--------------|-------|
| 歳入 | 一般会計 | 5,812,862,897 | 5,437,334,583 | 375,528,314  | 6.9   |
|    | 特別会計 | 2,330,190,464 | 2,379,880,429 | △ 49,689,965 | △ 2.1 |
|    | 計    | 8,143,053,361 | 7,817,215,012 | 325,838,349  | 4.2   |
| 歳出 | 一般会計 | 5,643,084,805 | 5,344,193,027 | 298,891,778  | 5.6   |
|    | 特別会計 | 2,278,250,246 | 2,329,527,965 | △ 51,277,719 | △ 2.2 |
|    | 計    | 7,921,335,051 | 7,673,720,992 | 247,614,059  | 3.2   |

#### ③ 財政状況／財政指標

| 区分      | 令和元年度  | 平成30年度 | 説明  |
|---------|--------|--------|---|
| 財政力指数   | 0.278% | 0.280% | 標準的な行政活動を行うために必要な財源をどの程度自力で調達できるのかの割合。「1」に近いほど余裕があるとされる。  |
| 実質収支比率  | 4.0%   | 2.8%   | 実質収支額の標準財政規模（*1）に対する割合。概ね3～5%の範囲が望ましい。  |
| 経常収支比率  | 93.4%  | 93.9%  | 義務的経費等の経常経費に、地方交付税等の一般財源がどの程度充当されているかをみることで、財政構造の弾力性を判断する。70～80%が望ましい。                              |
| 公債費負担比率 | 15.9%  | 18.2%  | 公債費に充当された一般財源の、一般財源総額に占める割合を表し、財政構造の硬直化にどの程度影響を及ぼしているかをみる。目安として、15%を超えると警戒ライン、20%を超えると危険ラインといわれている。 |

\*1 標準財政規模：地方公共団体の標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模を示したもの。

## 2 各会計決算

### (1) 一般会計

#### ① 総括

一般会計における決算の概要は次表のとおりである。

(単位：千円／％)

| 区 分            | 令和元年度決算額  | 平成30年度決算額 | 比較増減    | 増減率     |
|----------------|-----------|-----------|---------|---------|
| 歳入決算額          | 5,812,863 | 5,437,335 | 375,528 | 6.9     |
| 歳出決算額          | 5,643,085 | 5,344,193 | 298,892 | 5.6     |
| 歳入歳出差引額        | 169,778   | 93,142    | 76,636  | 82.3    |
| 翌年度へ繰り越すべき財源   | 34,791    | 638       | 34,153  | 5,353.1 |
| 継続費通次繰越額       |           |           |         |         |
| 繰越明許費繰越額       | 34,791    | 638       | 34,153  | 5,353.1 |
| 事故繰越し繰越額       |           |           |         |         |
| 実質収支額          | 134,987   | 92,504    | 42,483  | 45.9    |
| 基金繰入額(法第233の2) | 70,000    | 47,000    | 23,000  | 48.9    |

・令和元年度の決算収支は上記のとおりであるが、予算規模に対する執行率は歳入99.0%、歳出92.2%で、歳入歳出差引額は、169,778千円となっている。

・歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源34,791千円(繰越明許費)を差し引いた当年度実質収支は、134,987千円の黒字となっている。この実質収支から財政調整基金への繰入額70,000千円を差し引いた64,987千円が、翌年度への繰り越しとなっている。

#### ② 歳入

##### 1款 町税

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額         | 調定額          | 収入済額         | 不納欠損額     | 収入未済額       | 徴収率   |
|--------|--------------|--------------|--------------|-----------|-------------|-------|
| 令和元年度  | 772,538,000  | 863,493,287  | 828,627,407  | 5,222,493 | 29,643,387  | 96.5% |
| 平成30年度 | 787,308,000  | 879,512,190  | 842,529,366  | 4,173,587 | 32,809,237  | 96.3% |
| 比較増減   | △ 14,770,000 | △ 16,018,903 | △ 13,901,959 | 1,048,906 | △ 3,165,850 | —     |
| 増 減 率  | △ 1.9 %      | △ 1.8 %      | △ 1.7 %      | 25.1 %    | △ 9.6 %     | —     |

・収入済額は828,627千円で、歳入総額の14.3%を占め、前年度の収入済額842,529千円と比較すると、13,902千円の減額となった。収入未済額は29,643千円で、主なものは、固定資産税21,099千円、町民税8,465千円である。

・全体の徴収率は、前年度対比0.2ポイント増加して96.5%となっている。不納欠損額は、5,222千円となっている。

##### 不納欠損処分の推移

| 区 分 | 平成26年度     | 平成27年度     | 平成28年度     | 平成29年度    | 平成30年度    | 令和元年度     |
|-----|------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|
| 金 額 | 94,002,608 | 17,511,694 | 17,952,975 | 6,940,964 | 4,173,587 | 5,222,493 |
| 件 数 | 208        | 109        | 106        | 43        | 41        | 46        |

## 2款 地方譲与税

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額       | 調定額        | 収入済額       | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|------------|------------|------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 48,445,000 | 45,455,004 | 45,455,004 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 44,440,000 | 43,160,000 | 43,160,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 4,005,000  | 2,295,004  | 2,295,004  | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 9.0 %      | 5.3 %      | 5.3 %      | —     | —     | —      |

・収入済額は45,455千円で、歳入総額の0.8%を占め、前年度の収入済額43,160千円と比較すると、2,295千円の増額となっている。

## 3款 利子割交付金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額       | 収入済額      | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-----------|-----------|-----------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 1,510,000 | 625,000   | 625,000   | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 1,320,000 | 1,284,000 | 1,284,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 190,000   | △ 659,000 | △ 659,000 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 14.4 %    | △ 51.3 %  | △ 51.3 %  | —     | —     | —      |

・収入済額は625千円で、前年度の収入済額1,284千円と比較すると、659千円の減額となっている。

## 4款 配当割交付金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額       | 収入済額      | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-----------|-----------|-----------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 1,540,000 | 2,021,000 | 2,021,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 1,390,000 | 1,724,000 | 1,724,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 150,000   | 297,000   | 297,000   | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 10.8 %    | 17.2 %    | 17.2 %    | —     | —     | —      |

・収入済額は2,021千円で、前年度の収入済額1,724千円と比較すると、297千円の増額となっている。

## 5款 株式等譲渡所得割交付金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額       | 収入済額      | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-----------|-----------|-----------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 1,560,000 | 1,307,000 | 1,307,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 1,600,000 | 1,482,000 | 1,482,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | △ 40,000  | △ 175,000 | △ 175,000 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | △ 2.5 %   | △ 11.8 %  | △ 11.8 %  | —     | —     | —      |

・収入済額は1,307千円で、前年度の収入済額1,482千円と比較すると、175千円の減額となっている。

### 6款 地方消費税交付金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額         | 収入済額        | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 171,560,000 | 161,950,000 | 161,950,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 166,080,000 | 171,179,000 | 171,179,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 5,480,000   | △ 9,229,000 | △ 9,229,000 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 3.3 %       | △ 5.4 %     | △ 5.4 %     | —     | —     | —      |

・収入済額は161,950千円で、歳入総額の2.8%を占め、前年度の収入済額171,179千円と比較すると、9,229千円の減額となっている。

### 7款 自動車取得税交付金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額         | 収入済額        | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 6,510,000   | 4,908,626   | 4,908,626   | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 12,450,000  | 9,884,000   | 9,884,000   | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | △ 5,940,000 | △ 4,975,374 | △ 4,975,374 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | △ 47.7 %    | △ 50.3 %    | △ 50.3 %    | —     | —     | —      |

・収入済額は4,909千円で、前年度の収入済額9,884千円と比較すると、4,975千円の減額となっている。令和元年10月からの税制改革に伴う環境性能割交付金（20款）創設に伴い移行。

### 8款 地方特例交付金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額        | 収入済額       | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-----------|------------|------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 5,118,000 | 12,161,000 | 12,161,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 1,380,000 | 1,342,000  | 1,342,000  | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 3,738,000 | 10,819,000 | 10,819,000 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 270.9 %   | 806.2 %    | 806.2 %    | —     | —     | —      |

・収入済額は12,161千円で、前年度の収入済額1,342千円と比較すると、10,819千円の増額となっている。子ども・子育て支援臨時交付金9,829千円増加。

### 9款 地方交付税

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額          | 調定額           | 収入済額          | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|---------------|---------------|---------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 2,349,225,000 | 2,380,920,000 | 2,380,920,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 2,326,343,000 | 2,378,286,000 | 2,378,286,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 22,882,000    | 2,634,000     | 2,634,000     | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 1.0 %         | 0.1 %         | 0.1 %         | —     | —     | —      |

・収入済額は2,380,920千円で、歳入総額の41.0%を占め、前年度の収入済額2,378,286千円と比較すると、2,634千円の増額となっている。

## 10款 分担金及び負担金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額         | 調定額          | 収入済額         | 不納欠損額 | 収入未済額   | 収入率   |
|--------|--------------|--------------|--------------|-------|---------|-------|
| 令和元年度  | 28,230,000   | 29,623,302   | 28,999,902   | 0     | 623,400 | 97.9% |
| 平成30年度 | 57,865,000   | 56,460,494   | 56,248,694   | 0     | 211,800 | 99.6% |
| 比較増減   | △ 29,635,000 | △ 26,837,192 | △ 27,248,792 | 0     | 411,600 | —     |
| 増 減 率  | △ 51.2 %     | △ 47.5 %     | △ 48.4 %     | —     | 194.3 % | —     |

・収入済額は29,000千円で、前年度の収入済額56,249千円と比較すると、27,249千円の減額となっている。民生費負担金の内、老人福祉費負担金が10,589千円、昨年度対比20,471千円の減額となっている。これは、一昨年10月から養護老人ホームひのき荘が民間に移管されたことから、他市町村分の負担金についても直接、法人に納付されたためである。

## 11款 使用料及び手数料

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額          | 収入済額         | 不納欠損額    | 収入未済額      | 収入率   |
|--------|-------------|--------------|--------------|----------|------------|-------|
| 令和元年度  | 90,721,000  | 105,327,600  | 89,053,355   | 0        | 16,274,245 | 84.5% |
| 平成30年度 | 95,503,000  | 117,570,186  | 101,909,289  | 88,616   | 15,572,281 | 86.7% |
| 比較増減   | △ 4,782,000 | △ 12,242,586 | △ 12,855,934 | △ 88,616 | 701,964    | —     |
| 増 減 率  | △ 5.0 %     | △ 10.4 %     | △ 12.6 %     | —        | 4.5 %      | —     |

・収入済額は89,053千円で、歳入総額の1.5%を占め、前年度の収入済額101,909千円と比較すると、12,856千円の減額となっている。減額の主なものは、港湾使用料で9,948千円減の4,671千円となっている。

・収入率は84.5%と1割以上の収入未済となっている。収入未済の大半は住宅使用料が占め15,251千円となっている。当該使用料の早急な滞納整理が必要である。

## 12款 国庫支出金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額         | 収入済額        | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 611,287,000 | 524,238,278 | 524,238,278 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 541,909,000 | 512,999,132 | 512,999,132 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 69,378,000  | 11,239,146  | 11,239,146  | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 12.8 %      | 2.2 %       | 2.2 %       | —     | —     | —      |

・収入済額は524,238千円で、歳入総額の9.0%を占め、前年度の収入済額512,999千円と比較すると、11,239千円の増額となっている。その主な理由は、認定こども園施設整備補助に伴う児童福祉費国庫補助金が、前年度対比21,125千円増の24,994千円になったところである。

## 13款 道支出金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額         | 収入済額        | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 337,520,000 | 335,389,745 | 335,389,745 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 338,861,000 | 336,166,645 | 336,166,645 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | △ 1,341,000 | △ 776,900   | △ 776,900   | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | △ 0.4 %     | △ 0.2 %     | △ 0.2 %     | —     | —     | —      |

・収入済額は335,390千円で、歳入総額の5.8%を占め、前年度の収入済額336,167千円と比較すると、777千円の減額となっている。

## 14款 財産収入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額          | 収入済額         | 不納欠損額 | 収入未済額  | 収入率   |
|--------|-------------|--------------|--------------|-------|--------|-------|
| 令和元年度  | 19,163,000  | 20,462,010   | 20,401,257   | 0     | 60,753 | 99.7% |
| 平成30年度 | 26,102,000  | 35,763,809   | 35,703,056   | 0     | 60,753 | 99.8% |
| 比較増減   | △ 6,939,000 | △ 15,301,799 | △ 15,301,799 | 0     | 0      | —     |
| 増 減 率  | △ 26.6 %    | △ 42.8 %     | △ 42.9 %     | —     | 0.0 %  | —     |

・収入済額は20,401千円で、前年度の収入済額35,703千円と比較すると、15,302千円の減額となっている。その主な理由は、不動産売却収入11,966千円の減少である。

## 15款 寄附金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額       | 調定額        | 収入済額       | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|------------|------------|------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 75,501,000 | 65,889,600 | 65,889,600 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 74,501,000 | 53,719,000 | 53,719,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 1,000,000  | 12,170,600 | 12,170,600 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 1.3 %      | 22.7 %     | 22.7 %     | —     | —     | —      |

・収入済額は65,890千円で、前年度の収入済額53,719千円と比較すると、12,171千円の増額となっている。その主な理由は、一般寄付金10,940千円の減少、ふるさと応援寄付金24,575千円の増加、企業版ふるさと納税2,500千円の減少である。

## 16款 繰入金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額         | 収入済額        | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 495,936,000 | 362,164,000 | 362,164,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 469,871,000 | 276,271,471 | 276,271,471 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 26,065,000  | 85,892,529  | 85,892,529  | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 5.5 %       | 31.1 %      | 31.1 %      | —     | —     | —      |

・収入済額は362,164千円で、歳入総額の6.2%を占め、前年度の収入済額276,271千円と比較すると、85,893千円の増額となっている。財政調整基金繰入が250,000千円の増、ふるさと応援基金繰入63,420千円の減、減債基金50,000千円の減、土地開発基金49,795千円の減となっている。

## 17款 繰越金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額         | 調定額          | 収入済額         | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|--------------|--------------|--------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 46,141,000   | 46,141,556   | 46,141,556   | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 58,256,000   | 58,256,500   | 58,256,500   | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | △ 12,115,000 | △ 12,114,944 | △ 12,114,944 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | △ 20.8 %     | △ 20.8 %     | △ 20.8 %     | —     | —     | —      |

・収入済額は46,142千円で、前年度の収入済額58,257千円と比較すると、12,115千円の減額となっている。

## 18款 諸収入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額         | 調定額          | 収入済額         | 不納欠損額 | 収入未済額      | 収入率   |
|--------|--------------|--------------|--------------|-------|------------|-------|
| 令和元年度  | 128,459,000  | 127,373,567  | 113,887,167  | 0     | 13,486,400 | 89.4% |
| 平成30年度 | 138,911,000  | 142,723,530  | 140,567,430  | 0     | 2,156,100  | 98.5% |
| 比較増減   | △ 10,452,000 | △ 15,349,963 | △ 26,680,263 | 0     | 11,330,300 | —     |
| 増 減 率  | △ 7.5 %      | △ 10.8 %     | △ 19.0 %     | —     | 525.5 %    | —     |

・収入済額は113,887千円で、歳入総額の2.0%を占め、前年度の収入済額140,567千円と比較すると、12,680千円の減額となっている。

収入未済額が、13,486千円と多額になっており、主なものは、民生費貸付金償還金1,274千円、商工費貸付金償還金10,000千円、雑入中、損害賠償金2,073千円である。

## 19款 町債

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額         | 収入済額        | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 933,700,000 | 787,307,000 | 787,307,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 483,700,000 | 414,623,000 | 414,623,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 450,000,000 | 372,684,000 | 372,684,000 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 93.0 %      | 89.9 %      | 89.9 %      | —     | —     | —      |

・収入済額は787,307千円で歳入総額の13.5%を占め、前年度の収入済額414,623千円と比較すると、372,684千円の増額となっている。民生債（老人ホーム建設補助）295,900千円、土木債51,200千円、教育債55,400千円で、それぞれ増加し、臨時財政対策債で38,016千円減少した。

## 20款 環境性能割交付金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額       | 収入済額      | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-----------|-----------|-----------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 1,249,000 | 1,416,000 | 1,416,000 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 0         | 0         | 0         | 0     | 0     | —      |
| 比較増減   | 1,249,000 | 1,416,000 | 1,416,000 | —     | —     | —      |
| 増 減 率  | 皆増        | 皆増        | 皆増        | —     | —     | —      |

・令和元年10月からの税制改正施行に伴う創設交付金（令和元年10月からの自動車取得税市町村交付金減額の見合措置）。



### ③ 歳 出

#### 1款 議会費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額       | 支出済額        | 翌年度繰越額 | 不 用 額     | 執行率   |
|--------|------------|-------------|--------|-----------|-------|
| 令和元年度  | 66,278,000 | 64,108,075  | 0      | 2,169,925 | 96.7% |
| 平成30年度 | 66,017,000 | 65,175,185  | 0      | 841,815   | 98.7% |
| 比較増減   | 261,000    | △ 1,067,110 | 0      | 1,328,110 | —     |
| 増 減 率  | 0.4 %      | △ 1.6 %     | —      | —         | —     |

・支出済額は64,108千円で、歳出総額の1.1%を占め、前年度の支出済額65,175千円と比較すると、1,067千円の減額となった。

・不用額は2,179千円（対予算現額比率3.3%）となっている。新型コロナウイルス対策等の影響で、研修旅費1,583千円不執行となっている。

#### 2款 総務費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額          | 支出済額        | 翌年度繰越額 | 不 用 額        | 執行率   |
|--------|---------------|-------------|--------|--------------|-------|
| 令和元年度  | 1,055,478,000 | 998,489,127 |        | 56,988,873   | 94.6% |
| 平成30年度 | 1,049,611,000 | 967,875,545 |        | 81,735,455   | 92.2% |
| 比較増減   | 5,867,000     | 30,613,582  | 0      | △ 24,746,582 | —     |
| 増 減 率  | 0.6 %         | 3.2 %       | —      | —            | —     |

・支出済額は998,489千円で、歳出総額の17.7%を占め、前年度の支出済額967,875千円と比較すると、30,614千円の増額となった。

・主な事業費として、総務管理費の一般管理費では、職員人件費（一般管理費分）501,642千円、総務管理事務に35,421千円。文書広報費では、広報編集費5,058千円。財産管理費では、役場庁舎管理に23,064千円、公用車管理に9,812千円、土地開発公社対策22,289千円。企画費では、江差町まちづくり推進交付金に58,026千円、ふるさと応援寄附金対策に100,170千円、開陽丸青少年センター補助に20,437千円、第6次江差町総合計画策定に6,615千円、過疎地域自立促進基金積立に33,500千円、生活交通路線等維持費補助に15,827千円。交通安全対策費では、交通安全対策・指導員配置に2,983千円。住民運動対策費では、町内会・自治会活動支援に1,919千円、消費者問題・住民運動対策費1,972千円。徴税费、賦課徴収費の町税滞納管理システム管理に3,206千円、課税電算処理に4,768千円。戸籍住民登録費では、戸籍共同電算化推進に15,942千円、戸籍住民登録事務費4,148千円、住民基本台帳ネットワークシステム管理運営に2,341千円。選挙費として27,326千円が支出されている。

・不用額は56,989千円（対予算現額比率5.4%）となっている。主なものは、職員人件費17,757千円、江差町まちづくり推進交付金10,114千円、ふるさと応援寄附金対策12,242千円である。

### 3款 民生費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額          | 支出済額          | 翌年度繰越額      | 不 用 額       | 執行率   |
|--------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------|
| 令和元年度  | 1,799,256,000 | 1,663,351,615 |             | 135,904,385 | 92.4% |
| 平成30年度 | 1,438,639,000 | 1,384,115,710 | 1,053,000   | 53,470,290  | 96.2% |
| 比較増減   | 360,617,000   | 279,235,905   | △ 1,053,000 | 82,434,095  | —     |
| 増 減 率  | 25.1 %        | 20.2 %        | —           | —           | —     |

・支出済額は1,663,352千円で、歳出総額の29.5%を占め、前年度の支出済額1,384,116千円と比較すると、279,236千円の増額となった。

・主な事業費として、社会福祉費では、プレミアム付商品券事業に7,171千円、ひとり親家庭医療給付費3,111千円、民生委員児童委員活動費4,167千円、江差町社会福祉協議会運営補助8,090千円、国民健康保険費特別会計繰出金97,863千円。集会施設等の管理・改修等に23,460千円。高齢者関係では、養護老人ホーム入所措置50,609千円、高齢者等在宅生活支援に5,033千円、高齢者交通費助成として3,114千円、老人クラブ活動推進・敬老事業に1,374千円、福祉バス運行に2,929千円、後期高齢者医療広域連合負担金100,643千円、後期高齢者医療特別会計繰出金43,636千円、介護保険特別会計繰出金162,447千円。養護老人ホーム建設事業補助に332,470千円。社会福祉法人利用者負担額軽減事業補助6,544千円。障がい関係では、障害福祉サービス等給付等に520,979千円、重度心身障害者医療給付費18,576千円。在宅型総合福祉施設等管理に14,225千円。児童福祉費では、「子育て応援券」交付事業に3,042千円、なかよし・つばさ児童会運営費4,713千円、子ども発達支援推進に13,716千円、児童手当支給に65,319千円。認定こども園施設整備補助29,272千円、保育所の運営管理に107,456千円が執行されている。

・不用額は135,904千円（対予算現額比率7.6%）となっている。主なものは、養護老人ホーム建設事業補助で61,030千円、介護保険特別会計繰出金で20,694千円となっている。

### 4款 衛生費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 支出済額        | 翌年度繰越額 | 不 用 額       | 執行率   |
|--------|-------------|-------------|--------|-------------|-------|
| 令和元年度  | 431,740,000 | 421,503,096 | 0      | 10,236,904  | 97.6% |
| 平成30年度 | 431,291,000 | 417,739,106 | 0      | 13,551,894  | 96.9% |
| 比較増減   | 449,000     | 3,763,990   | 0      | △ 3,314,990 | —     |
| 増 減 率  | 0.1 %       | 0.9 %       | —      | —           | —     |

・支出済額は421,503千円で、歳出総額の7.5%を占め、前年度の支出済額417,739千円と比較すると、3,764千円の増額となった。

・主な事業費として、保健衛生総務費では、上水道安全対策事業出資金6,720千円、水道事業会計繰出金151,954千円、南部松山衛生処理組合負担金157,509千円、道南ドクターヘリ運航負担2,609千円、地域医療連携システム運営補助3,138千円、看護師等育成確保対策費2,700千円、道立江差病院医師確保対策として18,500千円、休日医療対策費2,688千円、脳疾患救急搬送特別支援補助6,200千円、介護老人保健施設建設費補助6,664千円。予防費では、子ども医療費助成として20,708千円、母子保健関係で10,829千円、インフルエンザ・高齢者肺炎球菌予防接種支援3,391千円、各種がん検診推進費5,264千円、健康診査・健康づくり活動推進に2,414千円。「きれいなまちづくり推進」や病虫害駆除などの環境衛生費に総額13,206千円が執行されている。

・不用額は10,237千円（対予算現額比率2.4%）となっている。

## 5款 労働費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 支出済額      | 翌年度繰越額 | 不 用 額    | 執行率   |
|--------|-----------|-----------|--------|----------|-------|
| 令和元年度  | 5,869,000 | 5,817,437 | 0      | 51,563   | 99.1% |
| 平成30年度 | 6,113,000 | 6,042,250 | 0      | 70,750   | 98.8% |
| 比較増減   | △ 244,000 | △ 224,813 | 0      | △ 19,187 | —     |
| 増 減 率  | △ 4.0 %   | △ 3.7 %   | —      | —        | —     |

・支出済額は5,817千円で、前年度の支出済額6,042千円と比較すると、225千円の減額となった。

・主な事業費として、檜山地域人材開発センター管理、運営費として5,786千円が執行されている。

・不用額は52千円（対予算現額比率0.9%）となっている。

## 6款 農林水産業費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 支出済額        | 翌年度繰越額 | 不 用 額       | 執行率   |
|--------|-------------|-------------|--------|-------------|-------|
| 令和元年度  | 203,828,000 | 195,530,682 | 0      | 8,297,318   | 95.9% |
| 平成30年度 | 207,945,000 | 195,919,592 | 0      | 12,025,408  | 94.2% |
| 比較増減   | △ 4,117,000 | △ 388,910   | 0      | △ 3,728,090 | —     |
| 増 減 率  | △ 2.0 %     | △ 0.2 %     | —      | —           | —     |

・支出済額は195,531千円で、歳出総額の3.5%を占め、前年度の支出済額195,920千円と比較すると、389千円の減額となった。

・主な事業費として、農業委員会費が総額22,219千円の支出。農業関係では、農業経営基盤安定対策2,075千円、産地生産力強化総合支援として4,048千円、経営所得安定化対策事業に1,079千円、多面的機能支払交付金事業31,878千円、鶉ダム管理運営費4,339千円、土地改良施設管理体制整備促進に13,002千円、水堀排水機場長寿命化対策に39,974千円。林業関係では、町有林保育事業に11,540千円、町民の森管理2,073千円、森林環境譲与税基金積立2,754千円、治山事業に22,998千円。水産業関係では、漁船上架施設管理4,934千円、漁業経営基盤安定対策6,102千円、ナマコ養殖関係事業に6,300千円、サケ種苗生産施設・海中飼育推進補助金1,866千円、ひやま地域にしん復興対策費に1,301千円が執行されている。

・不用額は8,297千円（対予算現額比率4.1%）となっている。

## 7款 商工費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 支出済額        | 翌年度繰越額    | 不 用 額     | 執行率   |
|--------|-------------|-------------|-----------|-----------|-------|
| 令和元年度  | 243,251,000 | 232,207,518 | 4,100,000 | 6,943,482 | 95.5% |
| 平成30年度 | 239,261,000 | 237,148,825 | 0         | 2,112,175 | 99.1% |
| 比較増減   | 3,990,000   | △ 4,941,307 | 4,100,000 | 4,831,307 | —     |
| 増 減 率  | 1.7 %       | △ 2.1 %     | —         | —         | —     |

・支出済額は232,208千円で、歳出総額の4.0%を占め、前年度の支出済額237,149千円と比較すると、4,941千円の減額となった。翌年度繰越額は繰越明許費として、街の飲食店応援券発行事業4,100千円となっている。

・主な事業費として、商工業振興費では江差商工会補助6,805千円、中小企業融資対策費19,000千円、産業資金貸付に62,415千円、青果卸売市場経営基盤強化対策費5,000千円、地域おこし協力隊配置4,127千円。観光費では、“古くて新しいまち江差”観光振興事業37,306千円、江差観光コンベンション協会運営補助4,900千円、道の駅管理に7,732千円、観光客誘致宣伝対策費5,728千円、観光振興事務2,197千円、地域おこし協力隊配置に2,549千円、日本遺産地域活性化推進事業5,196千円。追分関係では、追分会館管理等に33,894千円、江差追分会運営補助金10,230千円。自然公園等管理では、10,905千円が執行されている。

・不用額は6,943千円（対予算現額比率2.9%）となっている。

## 8款 土木費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 支出済額         | 翌年度繰越額 | 不 用 額       | 執行率   |
|--------|-------------|--------------|--------|-------------|-------|
| 令和元年度  | 765,523,000 | 660,303,127  |        | 105,219,873 | 86.3% |
| 平成30年度 | 760,999,000 | 671,239,357  |        | 89,759,643  | 88.2% |
| 比較増減   | 4,524,000   | △ 10,936,230 | 0      | 15,460,230  | —     |
| 増 減 率  | 0.6 %       | △ 1.6 %      | —      | —           | —     |

・支出済額は660,303千円で、歳出総額の11.7%を占め、前年度の支出済額671,239千円と比較すると、10,936千円の減額となった。特筆されるのは、降雪量の減少に伴う除雪対策で、11,624千円減額となった。

・主な事業費として、町道南ヶ丘団地22号通り・町道砂川4号通り道路改良工事39,233千円、町道南ヶ丘小学校線道路改良工事62,686千円、除雪ドーザー整備18,920千円、橋梁長寿命化補修対策56,122千円、道路補修対策38,829千円、町道除雪対策18,106千円、道路照明費19,819千円。港湾管理費30,520千円。都市計画マスタープラン・立地適正化計画策定費6,255千円、公共下水道事業特別会計繰出金181,097千円。江差町住宅リフォームプレミアム商品券発行事業補助11,710千円、新陣屋団地建設として108,020千円、公営住宅長寿命化対策25,805千円が執行されている。

・不用額は105,220千円（対予算現額比率13.7%）となっている。主なものは、除雪関連費や補助事業内示額減少に伴う事業調整によるものである。

### 9款 消防費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 支出済額        | 翌年度繰越額 | 不 用 額     | 執行率   |
|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-------|
| 令和元年度  | 239,477,000 | 231,432,701 | 0      | 8,044,299 | 96.6% |
| 平成30年度 | 227,916,000 | 225,416,607 | 0      | 2,499,393 | 98.9% |
| 比較増減   | 11,561,000  | 6,016,094   | 0      | 5,544,906 | —     |
| 増 減 率  | 5.1 %       | 2.7 %       | —      | —         | —     |

・支出済額は231,433千円で、歳出総額の4.1%を占め、前年度の支出済額225,417千円と比較すると、6,016千円の増額となった。

・主な事業費として、常備消防費では、行政組合分担金197,525千円、非常備消防費では、行政組合負担金24,818千円、消防施設費では消火栓取替などの行政組合負担金が総額3,936千円となっている。災害対策については、防災訓練、防災備蓄など、総額5,154千円の執行となっている。

・不用額は8,044千円（対予算現額比率3.4%）となっている。

### 10款 教育費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 支出済額        | 翌年度繰越額     | 不 用 額      | 執行率   |
|--------|-------------|-------------|------------|------------|-------|
| 令和元年度  | 665,171,000 | 520,685,635 | 93,281,000 | 51,204,365 | 78.3% |
| 平成30年度 | 481,406,000 | 455,384,292 | 638,000    | 25,383,708 | 94.6% |
| 比較増減   | 183,765,000 | 65,301,343  | 92,643,000 | 25,820,657 | —     |
| 増 減 率  | 38.2 %      | 14.3 %      | —          | —          | —     |

・支出済額は520,685千円で、歳出総額の9.2%を占め、前年度の支出済額455,384千円と比較すると、65,301千円の増額となった。翌年度繰越額は繰越明許費として、江差北小中学校暖房ボイラー更新整備事業が15,501千円、G I G Aスクールネットワーク整備事業が34,424千円、G I G Aスクールネットワーク整備事業（端末整備）43,356千円となっている。

・主な事業費として、小学校費として総額117,066千円、中学校費として総額113,713千円執行されている中で、英語指導助手配置に5,332千円、小学校特別支援教育対策として8,881千円、中学校特別支援対策として4,398千円、江差北小学校スクールバス運行委託に12,613千円、江差北中学校スクールバス運行委託に12,930千円、江差北中学校体育館屋根等改修に57,248千円の支出となっている。幼稚園費では、子ども・子育て支援新制度に係る私立幼稚園への施設型給付30,205千円。図書館費は総額10,002千円。バス管理を含む生涯学習推進費は総額12,919千円、文化会館管理費は総額37,620千円となっている。文化財保護費は14,877千円、学校給食組合負担金を除く保健体育費は総額22,383千円の執行となっている。そのほか学校給食組合負担金として46,597千円が支出されている。

・不用額は51,204千円（対予算現額比率7.7%）となっている。

### 11款 公債費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額         | 支出済額         | 翌年度繰越額 | 不 用 額    | 執行率   |
|--------|--------------|--------------|--------|----------|-------|
| 令和元年度  | 649,657,000  | 649,655,792  | 0      | 1,208    | 99.9% |
| 平成30年度 | 718,192,000  | 718,136,558  | 0      | 55,442   | 99.9% |
| 比較増減   | △ 68,535,000 | △ 68,480,766 | 0      | △ 54,234 | —     |
| 増 減 率  | △ 9.5 %      | △ 9.5 %      | —      | —        | —     |

・支出済額は649,656千円で、歳出総額の11.5%を占め、前年度の支出済額718,137千円と比較すると、68,481千円の減額となった。

・内訳は、長期借入償還元金605,239千円、長期借入金償還利子44,288千円。

## 12款 諸支出金

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額    | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額   | 執行率  |
|--------|---------|------|--------|---------|------|
| 令和元年度  | 100,000 | 0    | 0      | 100,000 | 0.0% |
| 平成30年度 | 100,000 | 0    | 0      | 100,000 | 0.0% |
| 比較増減   | 0       | 0    | 0      | 0       | —    |
| 増 減 率  | 0.0 %   |      | —      | —       | —    |

## 13款 予備費

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額     | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額    | 執行率  |
|--------|----------|------|--------|----------|------|
| 令和元年度  | 285,000  | 0    | 0      | 285,000  | 0.0% |
| 平成30年度 | 300,000  | 0    | 0      | 300,000  | 0.0% |
| 比較増減   | △ 15,000 | 0    | 0      | △ 15,000 | —    |
| 増 減 率  | △ 5.0 %  |      | —      | —        | —    |

## (2) 特別会計

・特別会計は、7会計でその合計決算額は、歳入2,330,190千円、歳出2,278,250千円で、歳入歳出差引額は51,940千円である。

・歳入及び歳出決算額を前年度の7会計の合計額と比較すると、歳入決算額は、49,690千円の減、歳出決算額は51,278千円の減となっている。

### ① 国民健康保険費特別会計

平成30年4月から、市町村単位で運営されていた国民健康保険について、都道府県が財政運営の責任主体となり、市町村とともに運営する方式に変更となり、2年目を迎えた。

また、保険税算定にあたっての資産割が廃止になり、2年が経過したところである。

#### ア 歳入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額         | 調定額          | 収入済額         | 不納欠損額       | 収入未済額       | 収入率   |
|--------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------|
| 令和元年度  | 885,931,000  | 871,525,337  | 836,565,955  | 2,060,994   | 32,898,388  | 96.2% |
| 平成30年度 | 936,913,000  | 933,729,673  | 894,420,987  | 4,876,811   | 34,431,875  | 96.3% |
| 比較増減   | △ 50,982,000 | △ 62,204,336 | △ 57,855,032 | △ 2,815,817 | △ 1,533,487 | —     |
| 増 減 率  | △ 5.4 %      | △ 6.7 %      | △ 6.5 %      | —           | △ 4.5 %     | —     |

・収入済額は836,566千円で、前年度の収入済額894,421千円と比較すると、57,855千円の減少となった。

・国民健康保険税は収入済額133,656千円で、前年度の収入済額147,463千円と比較すると、13,807千円の減となっている。また、2,061千円の不納欠損処分が行われた。保険税全体の徴収率は80.6%で、前年度81.1%と比較すると0.5ポイント下降している。

・道支出金（国保保険給付費交付金）は収入済額587,844千円で、前年度の収入済額619,150千円と比較すると31,306千円の減、一般会計及び基金の繰入金は、収入済額97,863千円で、前年度の収入済額102,278千円と比較すると4,415の減となっている。これらの減少は、保険給付費の減額に伴うところが多い。

#### イ 歳出

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額         | 支出済額         | 翌年度繰越額 | 不用額        | 執行率   |
|--------|--------------|--------------|--------|------------|-------|
| 令和元年度  | 885,931,000  | 820,403,433  | 0      | 65,527,567 | 92.6% |
| 平成30年度 | 936,913,000  | 887,255,718  | 0      | 49,657,282 | 94.7% |
| 比較増減   | △ 50,982,000 | △ 66,852,285 | 0      | 15,870,285 | —     |
| 増 減 率  | △ 5.4 %      | △ 7.5 %      | —      | —          | —     |

・支出済額は820,403千円で、前年度の支出済額887,256千円と比較すると66,853千円減少している。

・保険給付費は、支出済額556,905千円で、前年度の支出済額603,771千円と比較すると36,866千円減少した。前年対比、被保険者数が約100人減少していること、高額療養費を含む医療費の減少が大きな要因となっている。

・国保事業納付金（国保保険給付費一部負担金）は、医療費の減少に伴い支出済額207,309千円で、前年度支出済額211,603千円と比較すると4,294千円減少した。

・保健事業費は、支出済額15,804千円で、前年度支出済額9,651千円と比較すると6,154千円の増加となっている。今後も保険事業の充実と医療費の低減が望まれる。

・不用額は65,528千円（対予算現額比率7.4%）で、主なものは保険給付費の61,578千円である。

## ② 後期高齢者医療特別会計

### ア 歳入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額         | 収入済額        | 不納欠損額  | 収入未済額     | 収入率    |
|--------|-------------|-------------|-------------|--------|-----------|--------|
| 令和元年度  | 122,389,000 | 120,131,204 | 120,079,204 | 19,500 | 32,500    | 100.0% |
| 平成30年度 | 120,500,000 | 119,387,431 | 119,225,931 | 0      | 161,500   | 99.9%  |
| 比較増減   | 1,889,000   | 743,773     | 853,273     | 19,500 | △ 129,000 | —      |
| 増減率    | 1.6 %       | 0.6 %       | 0.7 %       | —      | △ 79.9 %  | —      |

・収入済額は120,079千円で、前年度収入済額119,226千円と比較すると853千円増加している。

・収入未済額は33千円となり、前年対比129千円減少している。全体の収入率は、前年対比0.1ポイント増加し100.0%となっている。

### イ 歳出

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 支出済額        | 翌年度繰越額 | 不用額       | 執行率   |
|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-------|
| 令和元年度  | 122,389,000 | 119,916,904 | 0      | 2,472,096 | 98.0% |
| 平成30年度 | 120,500,000 | 118,680,031 | 0      | 1,819,969 | 98.5% |
| 比較増減   | 1,889,000   | 1,236,873   | 0      | 652,127   | —     |
| 増減率    | 1.6 %       | 1.0 %       | —      | —         | —     |

・支出済額は119,917千円で、前年度の支出済額118,680千円と比較すると1,237千円増加している。

・不用額は2,472千円（対予算現額比率2.0%）で、主なものは後期高齢者医療広域連合納付金で1,593千円である。

## ③ 介護保険特別会計

### [保険事業勘定]

### ア 歳入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額          | 調定額           | 収入済額          | 不納欠損額     | 収入未済額       | 収入率   |
|--------|---------------|---------------|---------------|-----------|-------------|-------|
| 令和元年度  | 1,083,081,000 | 1,063,731,417 | 1,049,888,317 | 8,819,200 | 5,023,900   | 99.5% |
| 平成30年度 | 1,070,291,000 | 1,087,039,138 | 1,074,016,338 | 0         | 13,022,800  | 98.8% |
| 比較増減   | 12,790,000    | △ 23,307,721  | △ 24,128,021  | 8,819,200 | △ 7,998,900 | —     |
| 増減率    | 1.2 %         | △ 2.1 %       | △ 2.2 %       | —         | △ 61.4 %    | —     |

・収入済額は1,049,888千円で、前年度収入済額1,074,016千円と比較すると24,128千円減少している。主な要因は、繰越金が15,867千円、保険料8,007千円減少したことによるものである。

・滞納分を除く現年分の普通徴収保険料収納率は、88.7%で前年度対比2.9ポイント下がっている。現年分で1割以上が未納状態になっていることには問題があり、強制徴収等の対応が不可欠。また、時効管理を含む適正な滞納管理が必要である。



## イ 歳 出

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額          | 支出済額          | 翌年度繰越額 | 不用額        | 執行率   |
|--------|---------------|---------------|--------|------------|-------|
| 令和元年度  | 1,083,081,000 | 1,015,150,504 | 0      | 67,930,496 | 93.7% |
| 平成30年度 | 1,070,291,000 | 1,032,000,868 | 0      | 38,290,132 | 96.4% |
| 比較増減   | 12,790,000    | △ 16,850,364  | 0      | 29,640,364 | —     |
| 増 減 率  | 1.2 %         | △ 1.6 %       | —      | —          | —     |

・支出済額は1,015,151千円で、前年度の支出済額1,032,001千円と比較すると16,850千円減少している。これは、諸支出金（還付金）が19,348千円減少したことが大きな要因である。

・不用額は67,930千円（対予算現額比率6.3%）で、主なものは保険給付費49,738千円、地域支援事業費14,898千円である。

・保険給付費が右肩上がりでも増加している中で、給付サービスの適正化や介護予防対策等の一層の取り組みが求められる。

## [介護サービス事業勘定]

## ア 歳 入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額       | 収入済額      | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-----------|-----------|-----------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 5,252,000 | 2,982,350 | 2,982,350 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 5,252,000 | 2,768,100 | 2,768,100 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 0         | 214,250   | 214,250   | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 0.0 %     | 7.7 %     | 7.7 %     | —     | —     | —      |

・収入済額は2,982千円で、前年度収入済額2,768千円と比較すると214千円増額となった。

## イ 歳 出

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 支出済額      | 翌年度繰越額 | 不用額       | 執行率   |
|--------|-----------|-----------|--------|-----------|-------|
| 令和元年度  | 5,252,000 | 2,982,350 | 0      | 2,269,650 | 56.8% |
| 平成30年度 | 5,252,000 | 2,768,100 | 0      | 2,483,900 | 52.7% |
| 比較増減   | 0         | 214,250   | 0      | △ 214,250 | —     |
| 増 減 率  | 0.0 %     | 7.7 %     | —      | —         | —     |

・支出済額は2,982千円で、前年度の支出済額2,768千円と比較すると214千円減少となった。

## ④ 公共下水道事業特別会計

## ア 歳 入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 調定額         | 収入済額        | 不納欠損額 | 収入未済額    | 収入率   |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------|----------|-------|
| 令和元年度  | 313,468,000 | 311,945,800 | 311,076,102 | 0     | 869,698  | 99.7% |
| 平成30年度 | 285,999,000 | 283,774,219 | 282,812,942 | 0     | 961,277  | 99.7% |
| 比較増減   | 27,469,000  | 28,171,581  | 28,263,160  | 0     | △ 91,579 | —     |
| 増 減 率  | 9.6 %       | 9.9 %       | 10.0 %      | —     | △ 9.5 %  | —     |

・収入済額は311,076千円で、前年度収入済額282,813千円と比較すると28,263千円増加している。一般会計繰入金が5,283千円増加し、一般会計の負担比率が大きくなってきている。

・町債については前年対比14,900千円増加しており、令和元年度末町債残高は1,613,416千円となっている。

## イ 歳 出

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額        | 支出済額        | 翌年度繰越額 | 不用額       | 執行率   |
|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-------|
| 令和元年度  | 313,468,000 | 311,076,102 | 0      | 2,391,898 | 99.2% |
| 平成30年度 | 285,999,000 | 282,812,942 | 0      | 3,186,058 | 98.9% |
| 比較増減   | 27,469,000  | 28,263,160  | 0      | △ 794,160 | —     |
| 増 減 率  | 9.6 %       | 10.0 %      | —      | —         | —     |

・支出済額は311,076千円で、前年度の支出済額282,813千円と比較すると28,263千円増加している。主なものは、汚水管新設工事で24,829千円の増。

・項目別では、公共下水道費が137,107千円で、公債費が173,696千円の支出となっている。会計上は起債償還費が全体の半分以上を占めるといった状態が継続している。

## ⑤ 公設地方卸市場事業特別会計

## ア 歳 入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額       | 収入済額      | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-----------|-----------|-----------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 2,471,000 | 2,303,495 | 2,303,495 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 719,000   | 730,343   | 730,343   | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 1,752,000 | 1,573,152 | 1,573,152 | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 243.7 %   | 215.4 %   | 215.4 %   | —     | —     | —      |

・収入済額は2,303千円で、前年度収入済額730千円と比較すると1,573千円増加している。増加分は、一般会計からの繰入金である。

## イ 歳 出

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 支出済額      | 翌年度繰越額 | 不用額     | 執行率   |
|--------|-----------|-----------|--------|---------|-------|
| 令和元年度  | 2,471,000 | 2,303,495 | 0      | 167,505 | 93.2% |
| 平成30年度 | 719,000   | 566,475   | 0      | 152,525 | 78.8% |
| 比較増減   | 1,752,000 | 1,737,020 | 0      | 14,980  | —     |
| 増 減 率  | 243.7 %   | 306.6 %   | —      | —       | —     |

・支出済額は2,303千円で、前年度の支出済額566千円と比較すると1,737千円増加している。地方卸売市場卸売業者支援補助として、2,070千円支出されている。

## ⑥ 港湾整備事業特別会計

## ア 歳 入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額       | 収入済額      | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率    |
|--------|-----------|-----------|-----------|-------|-------|--------|
| 令和元年度  | 2,128,000 | 2,303,248 | 2,303,248 | 0     | 0     | 100.0% |
| 平成30年度 | 2,128,000 | 2,311,528 | 2,311,528 | 0     | 0     | 100.0% |
| 比較増減   | 0         | △ 8,280   | △ 8,280   | 0     | 0     | —      |
| 増 減 率  | 0.0 %     | △ 0.4 %   | △ 0.4 %   | —     | —     | —      |

・収入済額は2,303千円で、前年度収入済額2,312千円ではほぼ同額となっている。港湾センター使用料が主な収入である。

## イ 歳 出

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 支出済額      | 翌年度繰越額 | 不用額     | 執行率   |
|--------|-----------|-----------|--------|---------|-------|
| 令和元年度  | 2,128,000 | 1,447,515 | 0      | 680,485 | 68.0% |
| 平成30年度 | 2,128,000 | 1,880,421 | 0      | 247,579 | 88.4% |
| 比較増減   | 0         | △ 432,906 | 0      | 432,906 | —     |
| 増 減 率  | 0.0 %     | △ 23.0 %  | —      | —       | —     |

・支出済額は1,447千円で、前年度の支出済額1,880千円と比較すると433千円減少している。全額、港湾センターに係る管理費である。

## ⑦ 奨学金特別会計

## ア 歳 入

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 調定額        | 収入済額      | 不納欠損額 | 収入未済額      | 収入率   |
|--------|-----------|------------|-----------|-------|------------|-------|
| 令和元年度  | 5,349,000 | 15,962,943 | 4,991,793 | 0     | 10,971,150 | 31.3% |
| 平成30年度 | 4,373,000 | 14,381,250 | 3,594,260 | 0     | 10,786,990 | 25.0% |
| 比較増減   | 976,000   | 1,581,693  | 1,397,533 | 0     | 184,160    | —     |
| 増 減 率  | 22.3 %    | 11.0 %     | 38.9 %    | —     | 1.7 %      | —     |

・収入済額は4,992千円で、前年度収入済額3,594千円と比較すると1,398千円増加している。

・収入未済額は、10,972千円で毎年度累積額が増加し、滞納分の回収率も年々低下傾向にある。現年貸付回収率が81.8%、滞納繰越分は5.5%と著しく低く、**償還金の徴収対策について、早急な改善と整理が必要である。**

## イ 歳 出

(単位：円)

| 区 分    | 予算現額      | 支出済額      | 翌年度繰越額 | 不用額       | 執行率   |
|--------|-----------|-----------|--------|-----------|-------|
| 令和元年度  | 5,349,000 | 4,969,943 | 0      | 379,057   | 92.9% |
| 平成30年度 | 4,373,000 | 3,563,410 | 0      | 809,590   | 81.5% |
| 比較増減   | 976,000   | 1,406,533 | 0      | △ 430,533 | —     |
| 増 減 率  | 22.3 %    | 39.5 %    | —      | —         | —     |

・支出済額は4,970千円で、前年度の支出済額3,563千円と比較すると1,407千円増加している。

・基金残高や回収率の低下の問題から、**制度全体の見直しが必要である。**

### 3 財産に関する調書

#### (1) 公有財産

固有財産の土地及び建物については、決算年度末現在高土地16,847,502㎡、建物延べ面積106,887㎡となっている。令和元年度の財産の年度末現在高及び増減高は、次表のとおりである。

##### ① 土地及び建物

(単位：㎡)

| 区 分        |        | 令和元年度末現在高  |         | 平成30年度末現在高 |         | 増 減     |     |
|------------|--------|------------|---------|------------|---------|---------|-----|
|            |        | 土 地        | 建 物     | 土 地        | 建 物     | 土 地     | 建 物 |
| 本 庁 舎      |        | 6,116      | 5,276   | 6,116      | 5,276   | 0       | 0   |
| その他の行政機関   |        | 6,097      | 1,521   | 6,097      | 1,521   | 0       | 0   |
| 公共用<br>財 産 | 学 校    | 102,001    | 22,456  | 102,001    | 22,456  | 0       | 0   |
|            | 公営住宅   | 66,194     | 26,294  | 64,780     | 26,164  | 1,414   | 130 |
|            | 公 園    | 238,613    | 490     | 238,613    | 490     | 0       | 0   |
|            | その他の施設 | 139,056    | 37,101  | 139,056    | 37,101  | 0       | 0   |
| 山 林        |        | 12,378,180 | 0       | 12,378,180 | 0       | 0       | 0   |
| 宅 地        |        | 82,332     | 13,749  | 82,906     | 13,749  | △ 574   | 0   |
| 雑 種 地      |        | 418,096    | 0       | 419,510    | 0       | △ 1,414 | 0   |
| 原 野 外      |        | 3,410,579  | 0       | 3,410,579  | 0       | 0       | 0   |
| 合 計        |        | 16,847,264 | 106,887 | 16,847,838 | 106,757 | △ 574   | 130 |

##### ② 山 林

(単位：㎡)

| 土地の権利区分 | 令和元年度末現在高  | 平成30年度末現在高 | 増 減 |
|---------|------------|------------|-----|
| 所 有     | 12,378,180 | 12,378,180 | 0   |
| 分 収     | 0          | 0          | 0   |
| 合 計     | 12,378,180 | 12,378,180 | 0   |

##### ③ 物 権

(呼称：件)

| 区 分         | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減 |
|-------------|-----------|------------|-----|
| 温泉権（尾山町241） | 1         | 1          | 0   |

##### ④ 無体財産権

(呼称：件)

| 区 分           | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減 |
|---------------|-----------|------------|-----|
| 商標権（江差追分全国大会） | 1         | 1          | 0   |

## ⑤ 有価証券

(単位：千円)

| 区 分       | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減   |
|-----------|-----------|------------|-------|
| 北海道曹達株式会社 | 180       | 180        | 0     |
| 江差青果卸売市場  | 1,625     | 1,625      | 0     |
| 函館空港ビルデング | 0         | 300        | △ 300 |
| 檜山造船公社    | 6,000     | 6,000      | 0     |
| 合 計       | 7,805     | 8,105      | △ 300 |

## ⑥ 出資による権利

(単位：千円)

| 区 分           | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減 |
|---------------|-----------|------------|-----|
| 全国漁業信用基金協会    | 18,000    | 18,000     | 0   |
| 檜山南部森林組合      | 3,000     | 3,000      | 0   |
| 北海道私学振興基金協会   | 135       | 135        | 0   |
| 北海道農業信用基金協会   | 1,600     | 1,600      | 0   |
| 北海道市町村職員福祉協会  | 1,000     | 1,000      | 0   |
| 江差町土地開発公社     | 7,000     | 7,000      | 0   |
| 北海道土地改良事業団連合会 | 150       | 150        | 0   |
| 地方公営企業等金融機構   | 1,200     | 1,200      | 0   |
| 合 計           | 32,085    | 32,085     | 0   |

## (2) 物 品

(単位：台／基)

| 区 分                   | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減 |
|-----------------------|-----------|------------|-----|
| 車両                    | 13        | 15         | △ 2 |
| 通信機器<br>(地上デジタル放送中継局) | 3         | 3          | 0   |
| 全国瞬時警報システム機器          | 1         | 1          | 0   |
| 都市公園遊具                | 2         | 2          | 0   |

## (3) 債 権

(単位：千円)

| 区 分              | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減     |
|------------------|-----------|------------|---------|
| 奨学金貸付金           | 23,772    | 27,040     | △ 3,268 |
| 災害援護資金貸付金(福祉所管分) | 1,274     | 1,691      | △ 417   |
| 産業資金貸付金          | 10,000    | 0          | 10,000  |
| 季節労働者援護資金貸付金     | 268       | 268        | 0       |
| 新規就農者応援資金貸付      | 0         | 1,500      | △ 1,500 |
| 道立江差病院医師研究資金貸付   | 41,000    | 33,500     | 7,500   |
| 看護師等育成確保対策       | 21,300    | 18,600     | 2,700   |
| 合 計              | 97,614    | 82,599     | 15,015  |

#### (4) 基金

決算年度末における基金は、次のとおりである。

##### ① 財政調整基金（一般会計）

(単位：千円)

| 区 分     | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減       |
|---------|-----------|------------|-----------|
| 一 般 会 計 | 2,310,206 | 2,512,806  | △ 202,600 |

##### ② 減債基金

(単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減 |
|-----|-----------|------------|-----|
| 現 金 | 2,146     | 2,146      | 0   |

##### ③ 人材育成基金

(単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減     |
|-----|-----------|------------|---------|
| 現 金 | 1,820     | 4,520      | △ 2,700 |

##### ④ 岸田喜代治基金

(単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減 |
|-----|-----------|------------|-----|
| 現 金 | 162       | 162        | 0   |

##### ⑤ 子育て応援基金

(単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減     |
|-----|-----------|------------|---------|
| 現 金 | 5,080     | 11,480     | △ 6,400 |

##### ⑥ 地域福祉基金

(単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減      |
|-----|-----------|------------|----------|
| 現 金 | 4,199     | 29,695     | △ 25,496 |

##### ⑦ 元気づくり農業基金

(単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減     |
|-----|-----------|------------|---------|
| 現 金 | 2,469     | 5,469      | △ 3,000 |

##### ⑧ 歴史をいかすまちづくり基金

(単位：千円)

| 区 分     | 令和元年度末現在高 | 平成29年度末現在高 | 増 減   |
|---------|-----------|------------|-------|
| 一 般 会 計 | 27,667    | 28,664     | △ 997 |

##### ⑨ ふるさと応援基金

(単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減    |
|-----|-----------|------------|--------|
| 現 金 | 50,068    | 14,767     | 35,301 |

⑩ 過疎地域自立促進基金 (単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減   |
|-----|-----------|------------|-------|
| 現 金 | 22,881    | 20,880     | 2,001 |

⑪ 旧江差線（木古内・江差間）鉄道施設等整理基金 (単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減      |
|-----|-----------|------------|----------|
| 現 金 | 72,137    | 86,136     | △ 13,999 |

⑫ 森林環境譲与税基金 (単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減   |
|-----|-----------|------------|-------|
| 現 金 | 2,754     | 0          | 2,754 |

⑬ 奨学基金 (単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減   |
|-----|-----------|------------|-------|
| 現 金 | 14,833    | 11,555     | 3,278 |

⑭ 財政調整基金（国保会計） (単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減     |
|-----|-----------|------------|---------|
| 現 金 | 160,944   | 170,327    | △ 9,383 |

⑮ 介護保険給付準備基金 (単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減 |
|-----|-----------|------------|-----|
| 現 金 | 3,552     | 3,552      | 0   |

現金基金残高 (単位：千円)

| 区 分 | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減       |
|-----|-----------|------------|-----------|
| 現 金 | 2,680,918 | 2,902,159  | △ 221,241 |

預入先別残高状況 (単位：千円)

| 区 分         | 令和元年度末現在高 | 平成30年度末現在高 | 増 減       |
|-------------|-----------|------------|-----------|
| 北洋銀行江差支店    | 2,200,471 | 2,315,243  | △ 114,772 |
| 道南うみ街信用金庫本店 | 472,771   | 579,240    | △ 106,469 |
| 北海道労働金庫     | 7,676     | 7,676      | 0         |
| 現 金         | 2,680,918 | 2,902,159  | △ 221,241 |

## 《審査意見》

### ◆ 総括的事項

#### ○ はじめに

本町の人口は7,365人（住民基本台帳平成30年3月末現在）と8千人を大きく割り込み、前年同期と比較すると199人減少している。人口減少に加え少子高齢化、働く世代の転出など、過疎化の進行は継続している。加えて、第一次産業の衰退、関連する商工業経済の停滞など、取り巻く環境は一層、厳しさを増している。この傾向はここ数年変わっていない。

令和元年度後半から新型コロナウイルス問題が社会全体を大きく揺るがし、本町においてもその影響は計り知れないものになっている。

今年度は、監査基準及び実施要領が施行され、初めての決算審査となる。もっとも監査基準等は、これまで実施してきたものを体系的に整備したものであるから相対的に大きく変わるものではないが、町ホームページ等で開示しているの、どのような視点で監査しているのか等、より透明性と公平性が図られるものと考えている。

なお、決算審査については、実効性や効率性を高めるうえで、「財務監査との連携」、「例月出納検査との連携」を図っていく必要がある。このため、決算審査終了後に適時、措置状況の報告を求める事項もあるので、ご協力をお願いしたい。

#### ○ 事業実施と実現効果の測定

行政執行にあたっては、町民に対する広報が必要であると同様に、わかりやすい決算書類でなければならない。そして、実現効果の測定にあたっては、適切に事務事業評価がなされなければならない。限られた予算の中で、効果的な事務事業を実施するためには、常に評価と再構築が求められる。

安心・安全な町民生活の保持、そして将来に向けたまちづくりのためには、継続性と進展性を兼ね備えた有効な施策の推進が不可欠である。

#### ○ 会計事務処理

会計事務において、伝票・添付書類等については、一定程度改善された。また、事務事業の関係書類についても、決定年月日や通知年月日、書類の保存年限、開示等の整備をお願いしてきているところである。

今回、伝票会計において、旧年度と新年度の伝票が重なる決算期において、人事



異動も相まって決裁印の不整合が散見されたので、統一的なルール作りが求められる。

また、庁内における電算システムの在り方について、今一度、検証願いたい。会計書類における、正確性、明瞭性及び継続性の視点と、会計ルール、法令遵守及びコスト管理等の整理が必要である。

そのほか、会計書類を含む書類の文書管理の徹底をお願いしたい。紙ベースでの文書が主である以上、その取り扱いは業務の効率化にあたり非常に重要であり、保存と廃棄に係る書庫についても、町全体としての管理が求められる。

## ○ 財政運営

将来の事業実施に向けた起債の借入計画や積立金計画、昨年10月施行の消費税法(地方消費税)の改正や新型コロナウイルスによる世界的な景気動向、そして、地方交付税等、収入流動性項目に対応した財政運営が求められる。

一方、それらを賄う町財政は、「財政健全化法」に基づく健全化判断比率においては、一定程度の健全性が保たれているものの、基金の取り崩しや町税の減収、地方交付税等の減額が見込まれる。今後も身の丈に合った財政運営、一層の行財政改革に取り組むことが肝要である。

一方、町税が年々減少しているということは、産業経済が衰退していることを如実にあらわしており、厳しい財政にあっても将来に向けた投資的経費の注入は不可欠である。

## ○ 資産評価と管理運営

資産管理上、遊休財産や不用財産の処理、管理は勿論、適正な価値評価と台帳記録管理が求められる。

水道事業会計においては、固定資産の減価償却費や資産除去債務の計上がなされているが、一般会計及び特別会計については、現状においては未計上である。

資産評価の適正化と耐用年数等の台帳整備が必要であり、その上で、適正な修繕費等の管理運営が求められる。

一方、町内会は地域コミュニティの母体であり、防災自主組織としての役割を担っている観点から、町内会管理の集会施設については、適切な管理運営(費用)について検討願いたい。また、公園整備についても、子どもたちの遊び場のほか、母子交流の場という視点で、子育て世代に対する支援方策とする考えも必要である。

## ○ 特別会計・水道事業会計との連結

本体（一般会計）以外の会計、特別会計については、幾分見えづらくなっている面があるので、連結会計に準じた形で明瞭に表示していくことが求められる。

本体会計が形式上は独立しているが、一般会計からの繰り入れがなければ収支健全性が保たれない状況にあり、それぞれの起債（借金）状況も本体会計と連結した形で対応していく必要があるので、わかりやすく開示していくことが肝要である。

## ◆ 予算執行等について

### ○ 未収金対策

未収金について、町税、保険料、各種貸付金償還金、使用料など特別会計を含めた収入未済額は109,884千円で、前年度と比較して1,952千円減少しているが、依然として多額（主なものとして、町民税8,465千円、固定資産税21,099千円、住宅使用料15,251千円、国保税32,260千円、介護保険料5,024千円、奨学金貸付償還金10,971千円）となっている。全般的に前年より収納率が向上しているが、1億円を超える未収金があり、滞納整理の取り組みが急務である。

また、不納欠損額は、16,122千円（町民税1,175千円、固定資産税4,040千円、軽自動車税7千円、国民健康保険税2,061千円、後期高齢者医療保険料20千円、介護保険料8,819千円）となっている。

固定資産税は、不納欠損額、収入未済額においても多額であり、今般の民法（財産法）改正等も十分検証し、より有効な対策の推進に努めていただきたい。また、地方交付税算定の固定資産税基礎数値になることも留意されたい。

私債権に分類される住宅使用料や奨学金貸付償還金については、長期資産性価値を評価し、整理に努める必要がある。

これら未収金については、町民の公平負担の原則を認識するとともに、法令制度を遵守し、収納体制の確立と滞納整理に努められたい。

民間では、未収金は債権であるが、回収不能となると不良債権になってしまう。不良債権はもっていても何にもならないだけではなく、いたずらに管理運営に影響を及ぼすので、早期の処理が必要である。

なお、数年にわたり、未収金について指摘をしてきたところであるが、改善されない状況を踏まえ、具体的な対応について継続して監査対象としていくので、ご協力をお願いする。

## ○ 地方債償還

令和元年度末地方債残高は、一般会計で5,741,305千円、前年度末と比較すると182,067千円増加している。また、水道・下水道会計の残高は、4,441,291千円で前年度末と比較すると312,041千円減少している。

普通会計における将来負担比率は72.2%と3.5ポイント上昇している。

実質公債費比率対象の元利償還金は、一般会計649,528千円、水道・下水道会計499,321千円で、前年度より全体では10,548千円減少している。

実質公債費比率は16.5%であり、前年度対比0.2ポイント下降している。

指数的には大きな変動はないが、景気動向や地方交付税の見直しなど、状況的には好ましくない要素もあることから、継続して財政健全化に向けた取り組みが求められる。

## ◆ むすび

以上が令和元年度一般会計、特別会計及び基金運用状況にかかる決算審査の概要である。

町職員は最先端の行政のプロである。プロの仕事を遂行するためには常に研鑽が求められる。法律に基づいて業務を遂行していくうえで法律知識の習得は勿論のこと、財政上の債権回収にあたっては、プロとしてのスキルの習得が不可欠である。

そして、行政の仕事は全体として成り立っている。一部分が勝手に動いているのではない。少ない人員で多様な住民ニーズに応じていくためには、計画性と効率性を常に追求していかなければならない。そして、今やっている仕事、自分の立場がどこにあるのかを見極め、町民の幸せのため、町の将来のため、鋭意努力していただきたい。

本町には他町にはない素晴らしい歴史・文化・自然遺産がある。日本遺産に認定されて3年が経過した。これからが本番待ったなしの状況である。先人が培ったものを守り、それを伝承していくためには、将来に向けての産業基盤の確立が必需である。そのためには、常日頃のたゆまぬ研究開発と継続した調査試行が欠かせないことを忘れないでほしい。

新型コロナウイルスなど不透明な世界情勢の中、国内外の社会経済環境や時代の潮流を見誤ることなく的確に読み取り、組織の現状分析、改善を持続的に展開しながら、町民福祉の充実、向上を最優先とし、いつもの暮らしに「しあわせ」を感じるまちとして、町民の皆様とともに輝く未来を実現されることを願うものである。



江 監 査  
令和 2 年 7 月 2 2 日

江差町長 照 井 誉之介 様

江差町代表監査委員 近 藤 偉 章



令和元年度江差町水道事業会計決算審査意見の提出について

地方公営企業法第 3 0 条第 2 項の規定により審査に付された令和元年度江差町水道事業会計決算について審査した結果、次のとおり意見を提出します。

(監査委員事務局)



令和元年度

江 差 町 水 道 事 業 会 計  
決 算 審 査 意 見 書

江 差 町 監 査 委 員

## 令和元年度江差町水道事業会計決算審査意見

監査委員 近藤 偉 喜



監査委員 小梅 洋子



### 1 審査の対象

令和元年度江差町水道事業会計決算

### 2 審査の実施期間

令和2年6月19日

### 3 審査の方法

審査に当たっては、決算書類の計数の正確性、財務諸表が経営成績及び財政状態を適正に表示しているかを検証するため、会計帳簿と証拠書類との照合のうえ、関係職員に対する聴取を行い審査した。また、事業の経営内容の動向を認識するため計数の分析を行い、前年度と比較考察したほか、令和元年度の例月出納検査を参考に検討した。

### 4 審査の結果

審査に付された決算書類及び附属書類は、関係法令の規定に基づいて作成されており、その計数は正確であり、財政状態及び経営成績はおおむね適正に表示されているものと認められた。

審査の概要と意見については、次頁以降のとおりである。



水道事業会計

(1) 業務成績

① 業務の執行状況

令和元年度の業務の状況を前年度と比較すると、次のとおりである。

第1表

| 区 分     | 単位                    | 令和元年度     | 平成30年度  | 増 減     | 増 減 率 (%) |
|---------|-----------------------|-----------|---------|---------|-----------|
| 行政区域内人口 | A 人                   | 7,365     | 7,564   | △ 199   | △ 2.6     |
| 現在給水人口  | B 人                   | 7,207     | 7,398   | △ 191   | △ 2.6     |
| 普及率     | B/A %                 | 97.9      | 97.8    | 0.1     |           |
| 給水戸数    | 戸                     | 4,137     | 4,146   | △ 9     | △ 0.2     |
| 配水量     | C m <sup>3</sup>      | 1,053,100 | 969,232 | 83,868  | 8.7       |
| 有効配水量   | (E+F)D m <sup>3</sup> | 733,526   | 738,011 | △ 4,485 | △ 0.6     |
| 有収水量    | E m <sup>3</sup>      | 724,681   | 728,619 | △ 3,938 | △ 0.5     |
| 有効無収水量  | F m <sup>3</sup>      | 8,845     | 9,392   | △ 547   | △ 5.8     |
| 有収率     | E/C %                 | 68.8      | 75.2    | △ 6.4   |           |
| 給水原価    | 円                     | 431.80    | 476.22  | △ 44.42 | △ 9.33    |
| 供給単価    | 円                     | 368.92    | 370.73  | △ 1.81  | △ 0.49    |
| 職員数     | 人                     | 2(3)      | 2(3)    | 0(0)    | 0(0)      |

※ 行政区域内人口、現在給水人口は各年度とも3月31日現在の数である。

※ 有収率は、年間有収／年間配水量×100

この比率は、配水量に占める有収水量（給水量）の割合、つまり配水量のうち料金収入になった水量の割合を示している。

※ 令和元年度の水道事業会計給与費支弁職員は2名である。

ア 令和元年度における水道普及率は、行政区域内における小黒部地区（厚沢部町から給水）を含めると99.9%である。

イ 給水戸数は、4,137戸で、前年と比較すると9戸減少している。

ウ 配水量は、1,053,100m<sup>3</sup>で、前年と比較すると83,868m<sup>3</sup>増加している。

エ 収益の対象となる年間有収水量は、724,681m<sup>3</sup>で、前年度と比較すると3,938m<sup>3</sup>減少し、有収率は68.8%で、前年度と比較すると6.4ポイント減少している。

オ 有効無収水量は8,845m<sup>3</sup>で、前年度と比較すると547m<sup>3</sup>減少、配水量に占める割合は、0.8%となっている。

カ 給水原価は、経常費用312,916,891円を年間有収水量724,681m<sup>3</sup>で除すと、1m<sup>3</sup>当たり431円80銭となり、前年度と比較すると44円42銭（9.33%）減少している。

キ 供給単価は、給水収益267,350,601円を年間有収水量724,681m<sup>3</sup>で除すると、1m<sup>3</sup>当たり368円92銭となり、前年と比較すると1円81銭（0.49%）減少している。

(2) 予算の執行状況

① 収益的収入および支出

ア 収益的収入の予算執行は、次表のとおりである。

第2表

| 科 目        | 予 算 額       | 決 算 額       | 対予算増減額      | 備 考               |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------------|
| 第1款 水道事業収益 | 479,013,000 | 474,546,810 | △ 4,466,190 | 450,920,954 (税抜き) |
| 第1項 営業収益   | 295,851,000 | 290,964,361 | △ 4,886,639 | 267,412,601 (税抜き) |
| 第2項 営業外収益  | 183,161,000 | 183,582,449 | 421,449     | 183,508,353 (税抜き) |
| 第3項 特別利益   | 1,000       | 0           | △ 1,000     | 0 (税抜き)           |

※ 営業外収益の主な収入は、高料金対策補助金である。

イ 収益的支出の予算執行状況は、次表のとおりである。

第3表

| 科 目        | 予 算 額       | 決 算 額       | 不 用 額      | 備 考               |
|------------|-------------|-------------|------------|-------------------|
| 第1款 水道事業費用 | 345,376,000 | 325,998,776 | 19,377,224 | 312,916,891 (税抜き) |
| 第1項 営業費用   | 275,714,000 | 260,423,724 | 15,290,276 | 253,821,239 (税抜き) |
| 第2項 営業外費用  | 69,661,000  | 65,575,052  | 4,085,948  | 59,095,652 (税抜き)  |
| 第3項 特別損失   | 1,000       | 0           | 1,000      | 0 (税抜き)           |

② 資本的収支状況

ア 資本的収入の予算執行状況は、次表のとおりである。

第4表

| 科 目          | 予 算 額      | 決 算 額      | 対予算増減額      | 備 考              |
|--------------|------------|------------|-------------|------------------|
| 第1款 資本的収入    | 81,789,000 | 78,285,000 | △ 3,504,000 | 77,674,091 (税抜き) |
| 第1項 企業債      | 65,400,000 | 62,200,000 | △ 3,200,000 | 62,200,000 (税抜き) |
| 第2項 工事負担金    | 0          | 0          | 0           | 0 (税抜き)          |
| 第3項 一般会計出資金  | 7,023,000  | 6,720,000  | △ 303,000   | 6,109,091 (税抜き)  |
| 第4項 補助金      | 9,365,000  | 9,365,000  | 0           | 9,365,000 (税抜き)  |
| 第5項 固定資産売却代金 | 1,000      | 0          | △ 1,000     | 0                |

イ 資本的収出の予算執行状況は、次表のとおりである。

第5表

| 科 目        | 予 算 額       | 決 算 額       | 不 用 額       | 備 考               |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------------|
| 第1款 資本的支出  | 353,995,000 | 351,726,735 | △ 2,268,265 | 344,350,755 (税抜き) |
| 第1項 建設改良費  | 87,739,000  | 85,471,580  | △ 2,267,420 | 78,095,600 (税抜き)  |
| 第2項 企業債償還金 | 266,256,000 | 266,255,155 | △ 845       | 266,255,155 (税抜き) |

※ 資本的収入額が資本的支出額に不足する額は273,441,735円は、過年度損益勘定留保資金174,960,409円、当年度損益勘定留保資金98,481,326円で補てんされている。

③ その他の予算執行

予算書第7条で議会の議決を経なければ流用することができない経費の職員給与費及び交際費、第9条で棚卸資産購入限度額をそれぞれ定めているが、次表のとおりいずれも限度内の執行となっている。

第6表

(単位：円)

| 区 分    | 予算額（限度額）   | 執行額        | 備考              |
|--------|------------|------------|-----------------|
| 職員給与費等 | 16,003,000 | 14,194,737 | 14,193,657（税抜き） |
| 交際費    | 30,000     | 0          |                 |
| たな卸資産  | (500,000)  | 0          |                 |

※ 職員給与等：給料・手当・賃金・法定福利費・賞与引当金繰入額

(3) 経営状態

① 経営収支の状況は、次表のとおりである。

第7表

(単位：千円、%～税抜き)

| 区 分   |         | 令和元年度       | 平成30年度      | 平成29年度      | 平成28年度      | 平成27年度      |
|-------|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 総収益   | A       | 450,920,954 | 442,711,728 | 456,926,503 | 462,503,312 | 435,433,649 |
| 前年度対比 |         | 1.9         | △ 3.1       | △ 1.2       | 6.2         | △ 4.4       |
| 総費用   | B       | 312,916,891 | 347,168,495 | 345,757,603 | 351,407,048 | 398,517,699 |
| 前年度対比 |         | △ 9.9       | 0.4         | △ 1.6       | △ 11.8      | 5.0         |
| 純利益   | (A - B) | 138,004,063 | 95,543,233  | 111,168,900 | 111,096,264 | 36,915,950  |

本年度の経営収支は総収益450,920,954円、総費用312,916,891円で、差引き138,004,063円の純利益となり、当年度未処分利益剰余金は、51,798,490円となっている。前年度と比較すると42,460,830円の増である。

ア 収益

本年度の総収益は、450,920,954円で、前年度と比較すると8,209,226円（1.9%）増加している。

(ア) 営業収益は267,412,601円で、前年度と比較すると2,759,796円（1.0%）減少している。

内訳は、給与収益が267,350,601円、その他営業収益が62,000円となっている。

(イ) 営業外収益は、183,508,353円で、前年度と比較すると10,969,022円（6.4%）の増加となっている。

主な内訳は、町からの補助金（高料金対策）152,861,000円、長期前受金戻入29,749,414円で、町からの補助金が13,484,000円増加し、長期前受金戻入が2,579,036円減少した。

## イ 費用

本年度の総費用は312,916,891円で、前年度と比較すると34,251,604円（9.9%）減少している。

(ア) 営業費用は253,821,239円で、総費用の81.1%を占め、前年度と比較すると28,253,824円（10.0%）減少している。

(イ) 営業外費用は59,095,652円で、前年度と比較すると5,810,180円（9.0%）減少している。これは、企業債償還に伴う支払利息の減によるものである。

(ウ) 費用を性質別にみると、減価償却費・除却費が163,503,961円（52.3%）、企業債利息59,095,652円（18.9%）、委託料34,546,286円（11.0%）、修繕費16,583,091円（5.3%）、人件費14,194,737円（4.5%）、動力費9,496,796円（3.0%）、薬品費3,834,860円（1.2%）、工事請負費2,310,000円（0.7%）、通信運搬費2,071,494円（0.7%）、備品消耗品費2,045,071円（0.7%）、手数料1,159,600円（0.4%）、光熱水費1,027,622円（0.3%）等となっている。

(エ) 供給単価と給水原価の推移は、次表のとおりである。本年度は、供給単価368円92銭、給水原価431円80銭で、供給単価が給水原価より62円88銭下回っている。

第8表

| 年度  | 総有収水量 m <sup>3</sup> | 前年度対比 % | 供給単価 (A) | 給水原価 (B) | m <sup>3</sup> 当たり販売利益 (A-B) |
|-----|----------------------|---------|----------|----------|------------------------------|
| R1  | 724,681              | △ 0.5   | 368円92銭  | 431円80銭  | △62円88銭                      |
| H30 | 728,619              | △ 1.8   | 370円73銭  | 476円22銭  | △105円49銭                     |
| H29 | 741,643              | △ 1.1   | 368円90銭  | 466円19銭  | △97円19銭                      |
| H28 | 749,888              | △ 1.1   | 369円59銭  | 468円55銭  | △98円96銭                      |
| H27 | 758,324              | △ 2.6   | 369円30銭  | 485円42銭  | △116円12銭                     |
| H26 | 778,605              | △ 2.7   | 366円98銭  | 486円50銭  | △119円52銭                     |

※ 供給単価＝給水収益／総有収水量

給水原価＝（経常費用－受託工事費－材料売却原価）／総有収水量

#### (4) 財政状態

##### ① 資産

資産総額は4,413,591,152円で、前年度と比較すると80,652,433円（1.8%）減少している。これは、主に有形固定資産の減価償却による資産価値の減額によるものである。

ア 固定資産は4,365,413,735円で、前年度と比較すると85,408,361円（1.9%）減少している。

これは主に有形固定資産における建物・構築物・機械装置等の減価償却によるものである。

イ 流動資産は48,177,417円で、前年度と比較すると4,755,928円（11.0）増加している。これは、主に現金預金の増によるものである。

ウ 貯蔵品（たな卸資産）は、前年度末残高2,450,483円で、本年度入庫額0円、本年度出庫額0円で、本年度末残高は2,450,483円となっている。

##### ② 負債

負債総額は、3,736,202,869円で、前年度と比較すると218,656,496円（5.5%）減少している。これは、企業債残高の減少によるところが大きい。

令和元年度の企業債の借入額は62,200,000円で、償還額が266,255,155円であり、残額は2,827,874,557円となっている。

ア 固定負債は直近1年以内に返済される企業債を除いた額で2,554,565,005円となっている。

イ 流動負債は282,004,799円で、直近1年以内に返済される企業債が273,309,552円、未払金が4,857,852円、引当金が928,000円、預り金が2,949,395円となっている。

ウ 繰延収益は、会計制度の改正により従来剰余金としてきた補助金等について、長期前受金として当該資産の減価償却相当分を収益化していくこととされたもので、令和元年度に収益化した額29,749,414円を除いた残額899,593,065円が計上されている。

##### ③ 資本

資本合計は、677,388,283円で前年度と比較すると138,004,063円増加している。これは、当期純利益によるものである。

ア 自己資本金は614,736,966で変動はない。

イ 剰余金は62,651,317円で、前年度対比138,004,063円増加している。資本剰余金は10,852,827円で変動はない。利益剰余金は、当年度未処分利益剰余金が51,798,490円で、当期純利益分138,004,063円が充当され、増加している。

#### 第9表

| 区 分      | 令和元年度       | 平成29年度       | 平成28年度        | 平成27年度        | 平成26年度        |
|----------|-------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| 純 利 益    | 138,004,063 | 95,543,233   | 111,168,900   | 111,096,264   | 36,915,950    |
| 未処分利益剰余金 | 51,798,490  | △ 86,205,573 | △ 181,748,806 | △ 292,917,706 | △ 404,013,970 |

##### ④ 未収金について

未収金は16,405,803円で、内訳は給水量金未収金である。給水料金未集金については、前年度と比較するとほぼ同額となっている。5年以上経過の過年度分未収金については、6,242,302円で増加傾向にあることから、早急な滞納整理が必要である。

今後も利用負担公平の原則に立ち、収納率向上に向けた徹底した徴収対応を望む。

(5) 財務分析

|             | 項目                | 単位 | 令和元年度  | 平成30年度 | 算出方法                              | 備考   |
|-------------|-------------------|----|--------|--------|-----------------------------------|--|
| 回<br>転<br>率 | 自己資本回転率           | 回  | 0.46   | 0.55   | (営業収益－受託工事収益)<br>平均自己資本           | 自己資本回転率は、自己資本の動きを総資本から切り離して観察したものである。                        |
|             | 固定資産回転率           | 回  | 0.06   | 0.06   | (営業収益－受託工事収益)<br>(平均固定資産－平均建設仮勘定) | 営業収益と設備投資に投下された資本との関係で、設備利用の適否を見るためのものである。                   |
|             | 流動資産回転率           | 回  | 5.84   | 5.86   | (営業収益－受託工事収益)<br>(平均流動資産)         | この比率は、現金預金回転率、未収金回転率、貯蔵品回転率を包括するものである。                       |
|             | 利子負担率             | %  | 2.09   | 2.14   | (支払利息) × 100<br>{借入資本金 (=企業債)}    | 借入利子と借入資本金とを比較することにより利子率を計算したものである。                          |
|             | 企業債償還額<br>減価償却額比率 | %  | 164.33 | 137.12 | (企業債償還額) × 100<br>(減価償却額)         | 企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を対比したもので、企業債償還能力を示し、この数値が低いほど償還能力は高い。 |
| 損<br>益<br>率 | 総収益対<br>総費用比率     | %  | 144.10 | 127.52 | (総収益) × 100<br>(総費用)              | 総収益と総費用を対比したものであり、収益費用の想定的な関連を示すものである。                       |
|             | 営業収益対<br>営業費用比率   | %  | 105.35 | 95.78  | (営業収益) × 100<br>(営業費用)            | 営業活動の能率を示すもので、この比率が高いほど良好である。                                |
|             | 純利益対<br>総収益比率     | %  | 30.60  | 21.58  | (純利益) × 100<br>(総収益)              | 総収益のうち、最終的に企業に残されて純利益となったものの割合を比較したものである。                    |
|             | 総資本利益率            | %  | 3.10   | 2.10   | (純利益) × 100<br>(平均総資本)            | 企業に投下された資本の総額とそれによってもたらされた利益とを比較したものである。                     |
|             | 自己資本利益率           | %  | 23.92  | 19.43  | (純利益) × 100<br>(平均自己資本)           | 投下した自己資本の収益力を測定するものである。                                      |

## 5 総括

### (1) 経営状況

本年度における業務状況は、給水人口で前年度に比較し199人(2.6%)減の7,365人となっている。

年間配水量は、対前年度83,868 m<sup>3</sup>(8.7%)増の1,053,100 m<sup>3</sup>、有収水量は724,681 m<sup>3</sup>で、対前年度対比3,938 m<sup>3</sup>(0.5%)の減。有収率は令和元年度68.8%、前年度対比6.4ポイントの減になっている。

経営内容を見ると、総収益は前年度に比較し8,209,266円増の450,920,954円、また、総費用は312,916,891円となっている。総収益については、他会計補助金(高料金対策)により一定程度の安定化が図られている。料金収入は、前年度と比較して1.0%減少の267,412,601円となっている。今後についても給水人口の減少や営業用等の大口使用者の縮小、撤退などから、現料金体系のもとでは事業収益の柱である料金収入の伸びは期待できない。また、給水単価が給水原価より100円程度下回るといった料金算定の問題もあり、他会計補助金(高料金対策)を含む、収入対策について抜本的な改善が不可欠である。

他会計補助金(高料金対策)が152,861,000円営業外収益に計上されていることから、純利益が138,004,063円となっているが、補助金分を差し引くと14,856,937円の純損失となる。ここ数年の推移から、仮に当該補助金がないとすれば、恒常的に40,000千円程度の損失が予想されたが、25,000千円程に圧縮された。

### (2) 財政状況

資産のうち、固定資産は4,365,413,735円で98.9%を占めている。このうち、建物、構築物、機械及び装置、工具器具備品(事業用資産)で、4,260,920,654円で97.6%を占めている。当該資産は事業用資産であり、かつ、当該水道事業以外で利用できる資産でない。つまり、資産価値的に見ると耐用期限まで減価償却していく換価価値の低い資産である。

負債のうち、固定負債2,554,565,005円と流動負債・借入金273,309,552円の合計2,827,874,557円は施設整備に伴う起債残高である。

また、繰延収益は長期前受金899,593,065円であり、施設整備の際に補助金として受けたものを每期、減価償却費の補助金見合い分を減額しているものであり、実質債務ではない。

流動負債の借入金の額273,309,552円が次年度の起債の償還額になるが、今年度の起債発行額が62,200,000円であることから、実質償還金は211,109,552円である。起債残高2,827,874,557円を単純に割り返すと償還に14年間要することになる。ただしこれは、先述の他会計補助金(高料金対策)を同規模で14年間見込んでの計算である。

### (3) 資金の状況

地方公営企業会計制度の見直しにより、平成26年度からキャッシュ・フロー計算書の作成が義務付けられた。「業務活動」、「投資活動」及び「財務活動」の三つの区分について示されている。

今年度の各キャッシュ・フローを見ると、業務活動によるキャッシュ・フローは272,477,945円、投資活動によるキャッシュ・フローは△63,472,872円、財務活動によるキャッシュ・フローは△204,055,155円となっている。

財務活動によるキャッシュ・フローの企業債62,200,000円は借入金なので、見方を変えると次表のとおりとなる。

(単位：円)

|               |            |              |
|---------------|------------|--------------|
| 前期繰越現金預金高     |            | 24,371,213   |
| 当期業務活動による資金   |            | 272,477,945  |
| 投資（設備）金額      |            | △63,472,872  |
| 財務活動（企業債償還）資金 |            | △266,255,155 |
|               | 差引当期資金過不足額 | △32,878,869  |
| 資金調達          | 企業債借入      | 62,200,000   |
|               | 差引期末資金残高   | 29,321,131   |

すなわち、キャッシュ・フロー計算書が示すとおり、投資（設備）資金不足が見込まれ、依然として厳しい状況にあると言える。また、前年度と比較して企業債借入金額が10,600,000円減少しているが、高止まりの状況にあり、今後の推移を注視していく必要がある。

#### (4) 今後の事業経営

今後の事業経営を継続するにあたり、配水管の老朽化など施設設備の計画的な更新を実施し、施設の長寿命化を図ることが重要である。

当面は、平成26年度策定の「江差水道事業ビジョン」及び、平成27年度策定の「江差町水道事業再構築計画」を推進することになるが、人口減少の中、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、将来的な水道施設のあり方を検討しなければならない。

なお、施設整備とその財源対策にあたっては、従前の施設整備に伴う借入金（起債）の償還が終了していないことに鑑み、料金体系を含め、水道事業会計を包括する立場（町全体）での対策が急務である。



